



## 家づくりが育む建築への道のり | 伝統文化と近代建築の起源を探る

一級建築士事務所アトリエ4A代表 天野 彰

(第3回/全12回)

### そして陸路を渡り歩き ローマ・テルミニに立って居た…?

建築を学ぶことは同時に伝統技術や古い街の形成や文化や社会を学ぶことでもある。そのため京都や金沢などたびたび探訪していた。が、生身の人が暮らす家づくりは家族の本音はもとより育った環境や伝統まで思い知らされる。

そのことが近代建築の起源や本質が何かを発祥の地で探してみたいとの思いが募って来る。今思えばその無謀が建築士の職能を探るきっかけともなった。

### 異邦の地で空気を感知民族や文化を知る

若気の至りに背を押され、今思えば横柄で恥ずかしいことばかりだが、結果その実態や民族の歴史を知ることになった。時が経った今その一つ一つはもうろうとしているが感動とその場の空気、人との触れ合いは鮮明に覚えている。丁度そのころ安保闘争や学園紛争などが活発化し、多分に漏れず時の体制にうんざりもしていた。

戦後間もない東京オリンピック直前で、再開したソビエト経由のインツーリスト(ソ連の旅行会社)で、途中モスクワ大学に降り立ち社会主義の建築教育にも興味もあった。

### 衝撃はにおいと暗さにはじまる体感?

ソ連のオルジョニキーゼ号に乗船した途端独特の臭いに息が詰まった。嗅覚が鋭いわけでもないが船室の狭さと揺れに食事もままならずナホトカ港に着く。この状態は続いて長い鉄道旅の後悔さえした。のちにアザラシの脂と分かるが、それこそが民族の文化と慣れる覚悟をする。

こうして社会と政治を肌で感じ、地下鉄駅の宮廷のような豪華さに驚くと同時、公衆トイレの便器などは持ち去られ、手に持つカメラやラジオなどを羨望の眼で見つめられひと握りもある札束でせがまれたことには恐怖

さえ覚えた。これが超インフレの現実の暮らしと改めて思い知る。

しかしこの暗さと侘しさはいったいなんだろう?冷たい雨のせい?言葉の通じる学生たちと話すにつれ彼らの不満やストレスを察した。モスクワの大学で学ぼうなど会話もままならない言語で叶いようもなく早々に挫折する。その時の彼らの憂える瞳の奥に、のちにレーニン像が無惨に引き倒される予感さえ覚えた。

ホウホウの体でモスクワをあとにしてレニングラードに降り立つ。まさしくロシア帝国が誇った首都サンクトペテルブルクだ。街の主要な建物はまさに宮廷のような彩りの石張り。その豪華さに目を奪われるが、エルミターージュなどには主だった作品もあまりなくなぜか芝居のセットのような空しさも覚える。

### 国境を抜けると明るさと色づかいの変化に驚く

目が覚めると車窓に緑の森をさっそうと走る真っ赤なスカートの女の子と眩い銀輪が目飛び込んで来た。欧州北歐フィンランドだ。ヘルシンキ中央駅に降り立つと、駅はフィンランド独特の赤みを帯びた花崗岩で覆われていた。民族の重厚さとモダニズムを見事に創り込む巧み興奮する。しかもこれがコンペで選ばれたエリ

エル・サーリネンの設計で、あのエーロ・サーリネン\*の父親であることを改めて納得。しばらくは興奮してその場を離れることさえできなかった。これが伝統と近代建築の葛藤の出合いの始まりとなった。

しかしその地には憧れのアルバル・アールトの事務所もある。持ち前の横暴さで何度も通って面会の栄誉を得る。さすがにアルバイトの機会など得られようもないが、この勢いで多くの作品を紹介されて中まで見せていただけるチャンスとなった。しかも多く建築士や学生たちと会い、彼らの家にも訪ねることも出来た。幸い東京オリンピック直前、皆日本びいきで快くもてなしてくれ泊まることさえもでき、彼らの住まいや生活文化を生で体験し今も交流が続いている。

さあ、この勢いでローマを目指し伝統と近代発見の欧州縦断の探訪だ。

\*ジョン・F・ケネディ国際空港TWAフライトセンター、ワシントン・ダレス国際空港そしてセントルイス・ゲートウェイアーチと構造の美で名を馳せるフィンランド人



オルジョニキーゼ号のくすんだ赤地に楯と鎌



国際列車の女性車掌、奥には多くの監視員か?



雨のクレムリンの奥のほうにポクロフスキー聖堂が見える



寒い5月のモスクワに佇む筆者、持っていたカメラとラジオ、この後大変なことに



モスクワ大学の門は難くはなかなかに開くことはなかった



①



②

① オルジョニキーゼ号のくすんだ赤地に槌と鎌

② 国際列車の女性車掌、奥には多くの監視員か？



③



④



⑤

③ 雨のクレムリンの奥のほうにポクロフスキー聖堂が見える

④ 寒い5月のモスクワに佇む筆者、持っていたカメラとラジオ、この後大変なことに

⑤ モスクワ大学の門は難くなかなか開くことはなかった



ヘルシンキタピオラのハウジング



アールトの自宅